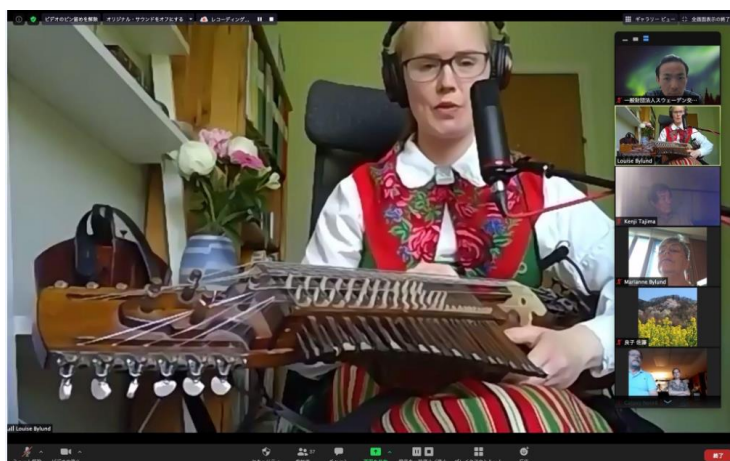


インターネット版

# 白夜



第3号

2021年7月

北海道スウェーデン協会

当協会の機関紙「白夜」インターネット版第三号をお届けします。

現在も、コロナの影響で私たちの生活は、依然として大きな制約を受けています。とにかく大勢の人々が集まることができないので、当協会の活動も停滞したままになっています。

けれども、ワクチンの接種が進めば、状況は大きく好転してくることでしょう。そこで、今号では、当協会の会員に、このコロナ禍が収束したあとに向けてどんな思いを持っているかについて、語っていただきました。

皆さんも、コロナ後にしたいと考えていることはいろいろとあることでしょう。それでは、今回寄稿いただいたお二方はどうなのか。皆さんの現在の心情と照らし合わせて、お読みいただければ幸いです。



## ポストコロナにおける日本とスウェーデンの交流

高松 要

2019 年末から始まった新型コロナウイルスの騒動により、永らくスウェーデンとの行き来が制限されてしまっている中で、音楽に携わる者として、またスウェーデンに関わる者として出来ることはないだろうか…と、昨夏よりオンライン会議アプリケーション等を利用してスウェーデンと日本をつなぎ、スウェーデンの音楽をリアルタイムで聴いてもらうオンラインコンサートや配信イベントを企画して参りました。

日本とスウェーデンの時差はもとより、音質面や現地の音響など、技術的な課題は当初から予想出来ておりましたが、視聴に堪えうる音質と画質はある程度保った状態で開催することができ、回を重ねるごとに多くの方にご覧いただくことができるようになりました。また、日本とスウェーデンのみならず、アメリカやロシ

ア、韓国といった国々からも多くの方に観客として参加していただき、演奏後に設けた出演者とのトークタイムが盛り上がるなど、当初予想していた以上にオンラインイベントならではの国際交流の機会を作ることができたと思っています。

日本でも漸くワクチン接種が始まり、北海道でも高齢者を皮切りとして徐々にその枠が広がってきました。長かったコロナ禍というトンネルも終わりに差し掛かり、2018 年に日本とスウェーデンの外交関係樹立 150 周年に伴う各種イベントが開催された時のように、日本とスウェーデン、両国の自由な往来が再開されることはそう遠くない未来の話でありましょう。それに向けた取り組みは、今の段階から準備を進めておく必要があるのではないかと思います、少しずつ準備を進めています。

これまで進めてきたオンラインの取り組みは、自宅や思い思いの場所から日本とスウェーデン、それ以外の国々とをリアルタイムでつなぐことができるという点で大きなメリットがあります。これまでは専門分野であった音楽をメインに企画をしてきましたが、よりお互いの国を体験できるコンテンツとして、いわゆるバーチャルガイドツアーや現地イベントをインターネットで参加できるよう、各所に打診しています。

またその過程で、スウェーデンとしても、日本はアジアの東の果てにある遠い国という認識に留まらず、ビジネスの面でも観光の面においても新たな可能性は常に模索し続けていることを感じました。と同時に、日本人がスウェーデンに抱いているイメージや感情と、スウェーデンの方々が日本に抱くそれらには差異があり、そこに今後につながるヒントがあるのではないかと感じています。

スウェーデンを日本に紹介するだけでなく、スウェーデンに日本…とりわけ北海道を紹介していくことも、今後の活動としては必要なこ

となのではないか。そのために何ができるか…  
貧しい発想で思いつくことは多くはないので  
すが、まずは自分がアクションを起こしてみ  
ること、それを通して常にアンテナを高くして日  
本とスウェーデン、両国に住む人たちの声に耳  
を傾けて、よりそのニーズに合うもの・ニーズ  
を掘り起こせるものを提案していきたいと考  
えています。



オンラインコンサートの画面

◇表紙写真も、オンラインコンサートの一コマです。

## コロナが収束したら・・・

坂本 千鶴

私とスウェーデンとの接点は私の住む「当別  
町夏至祭」の実行委員を 15 年間することにな  
り夏至祭をはじめ、スウェーデンの四季折々の  
伝統行事や文化に触れ、学び、姉妹都市レクサ  
ンド市から来町する方々と交流する多くの機  
会に恵まれたことが始まりでした。

最近私がやり取りするメールや電話には「早  
く普通の生活ができるようになりたいですね」  
という一言が必ず付け添えられています。

マスクなしで会話して、食事や旅行に出かけ  
たりできる日常が当たり前と思っていた私も  
コロナパンデミックにより長く制限された自  
粛生活の不安感に苛まれた一人だったと思い  
ます。

昨年の夏至のシーズンはレクサンドで過ご

し限界で見聞を深めている筈だった私。

それは、年齢もシニアになりこれからの自分  
の交流スタイルと歳を重ねていく生き方のヒ  
ントになるのだと、前途洋々たるものでした。  
それがキャンセルとなり戸惑いました。

そんな中、#スウェーデン #北欧をキーワ  
ードとするこれまでにない様々なジャンルの  
ZOOM やオンラインの講演会、コンサート、森歩  
き、スウェーデンとの昼夜 FIKA などに参加し  
ました。

紹介された北欧の映画も観ました。ZOOM に参  
加した方との交流が広がりました。特にスウェ  
ーデン、デンマーク、フィンランドの幸福感を  
豊かに、確実にする生き方や物事の選択、シン  
プルライフにある暮らしのヒントからはこれ  
からの「自分の生活と社会との関わり方」を考  
える絶好の機会となりました。

「普通、当たり前」の視点がコロナ禍を体験  
したか、しないかで価値観が大きく違っていた  
と思います。

コロナ禍ではありますが、色んなご縁と思い  
が「今！」と私にスイッチが入り、「スウェー  
デン ダーラナの手仕事と雑貨展」を当別町に  
て 7 月 29 日から 4 日間、主催し開催する運び  
となりました。当初は 6 月の初夏の頃に準備し  
ていましたが政府の緊急事態宣言により延期  
となったものです。

コロナが収束したら・・・以前から関心が深  
かった北海道とダーラナの風土、食、暮らし、  
文化の魅力を互いに紹介、共有する機会の実現  
に向けてスタートできるよう備えたいと思い  
ます。

コロナが収束したら・・・北海道スウェー  
デン協会の活動も再開して会員の皆さまに早く  
お会いしたいです。そして私はスウェーデンに  
行こう！

白夜第 3 号 終わり